

令和3年度 学校法人創志学園 事業計画書

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

【高等教育部門】

1. 環太平洋大学

＜事業計画概要＞

建学の精神に基づく教育目的の達成、研究拠点として学術における対外的発信、地域に根差した活動による地域貢献の役割の達成、産学連携を推進した実学教育と社会貢献に努める。

どこにもない大学の対外的評価をさらに高めるべく、より完成度の高い教育成果を生み出す新たな教育活動を設定する。また、中長期的な人事計画と人材育成を行いつつ、IPUNZをはじめとする海外大学との連携・交流や、国内での高大接続の交流事業を積極展開する。さらに、施設・設備を最大限活用して教育研究活動を発展的に向上させ、募集広報活動に最大限活用する。

加えて、大学機関別認証評価の受審結果を受けて、学内体制の整備と、新評価基準への制度や規程の対応を行う。

＜主な事業計画＞

1. 学部・学科の主な取り組み

(1) 次世代教育学部 こども発達学科

高校での模擬授業において、リアルケアベビーを活用した乳児保育、幼児体育コース、幼児英語コース、幼児心理コース等実践的な指導例をアピールする。また、附属こども園開設準備に向けて地域の幼稚園・保育園・こども園をフィールドとする実学教育を推進する。さらに、学科独自の3つのR (Respect: 自己と他者を尊重しよう、Responsibility: 応答力・責任・役割を果たそう、Resilience: 折れない心・やめない心をつくろう) に基づく教育を推進(非認知面)する。加えて、地域に開く子育て支援事業を通して、学生の保育スキル向上と大学知名度、イメージの向上に繋げるとともに、公立幼保合格(24名以上)を目指し、私立園希望者は100%の就職率を維持する。

(2) 次世代教育学部 教育経営学科

「小学校教員専攻」「中高英語教員専攻」と、「国際教育コース」「教育心理コース」等の学科内コース、実践的な学びを提供する「青年教師塾」・「理科教師塾」・「道徳教師塾」の効果的な整理・拡充を進め、魅力的なコース設定への再編成を検討する。また、複数免許及び資格取得の強化を図り、副免許の取得率を向上させるとともに、英検2級、ICT関係の資格、日本語教育の資格等の取得推進と、今後学科の魅力となる資格取得を検討する。さらに、「2020年度教員採用試験小学校教員現役生延べ106名合格、実数66名合格」という実績をオープンキャンパスや高校訪問等で確実にPRし、受験生の確保につなげる。加えて、学科教員の専門性を活かした出前授業を高校へPRし、直接高校から学科へ要望をいただく等、高大連携、広報活動を充実させる。

(3) 次世代教育学部 教育経営学科 [通信教育課程]

個別相談会の効率的な実施により、入学検討者の満足度を高め、出願者数の増加に導く。また、学園グループ内学生の比率を抑え、外部一般学生の募集を強化するために、WEB広報やHPの更新に注力する。さらに、WEB決済システムを拡充して学生の利便性を高め、事務作業の合理化と事務ミスの防止につなげる。加えて、通学課程とも連携しながら新コースや免許取得コースの可能性を探っていく。

(4) 体育学部 体育学科

「就職に強い IPU！」を強固にアピールするとともに、2022 年度へ向けたコース教育に基づいた学びの積み上げと設置科目のスリム化を図る。また、「教員養成コース」「公務員コース」「スポーツ科学コース」「スポーツマネジメントコース」の 4 コースに、コース長を任命し、1,200 名を超える学生数を管理するべく組織体制・役割分担を再構築する。加えて、岡山県内高校への出前授業を行い、倉敷、倉敷中央、玉島等の入学者の多い高校へアプローチする。

(5) 体育学部 健康科学科

柔道整復師国家試験の合格率 100%を目指し取組みを強化する。具体的には、4 年生への補習による小テストやグループ学習の実施や、柔道整復専門科目の見直し、国家試験対策の予備校講師の招聘等、成績向上と国家試験合格に向けた教育力の向上を図る。また、各学年における小テストの積み重ねと、環トレ柔整の実施や進捗不良学生に対する特別補習を実施する。加えて、コンディショニングルーム、スポーツ科学センターを活用して、入学者確保の取組みを強化しつつ、学生の動向についてメンターを中心に学年主任、学科長と情報を共有しながら注意深く学生を観察・指導し、退学を防止する。

柔道整復師国家試験の合格率向上への取組みを強化し、合格率 100%を目指し達成させる。また、基礎学力の高い入学者の確保するため、高校ガイダンス(模擬授業)に積極的に参加し本学科への興味・理解を高め入学に繋げるとともに、コンディショニングルーム、スポーツ科学センターを活用し、入学者確保の取組みを強化する。さらに、メンター、ゼミ担の受け持ち学生数の少数化制度を導入する。

(6) 経営学部 現代経営学科

グローバル化する企業活動に貢献できる人材の養成に向け、実務家教員や外部講師の招聘とその科目の履修促進を行うとともに、就職活動に直結する資格取得や語学力強化に重点を置いたカリキュラムの再編成、インターンシップ制度の拡充を図る。また、新コースとして「公共経営コース」を立ち上げて、公務員(国家・地方行政職)の受験指導を行う。さらに、入口の定員充足と出口の就職率 100%に向け、大学・学部ブランドの確立に向けた広報活動を行う。

2. 就職への取組み

- (1) 企業就職においては、翔志会活動の早期組織化により就活ノウハウを早く修得させるとともに、インターンシップの質の向上を目指していく。全体の企業就職対象者に向けては、インターンシップ学内合同説明会を開催し、参加を推進していくとともに、学科やゼミ、体育会との連携を強化していく。
- (2) 教員採用試験合格者を増加させるべく、キャリアデザイン、キャリアサポート、教員採用試験対策講座等や、個別、グループ指導をきめ細かく実施し、卒業生・通信教育の学生をあわせて合格に導くように指導していく。教諭・常勤講師等・私立を合わせて 100 名以上を教員として就職させる。また、ゼミの先生と密に連携して学生へのサポート体制を充実するとともに、指導内容や指導方法について、各指導担当者の共通理解を図りながら連携して指導に当たる。
- (3) 公務員採用試験の合格増に向けて、遠隔地受験にバスツアーを継続実施し、受験機会を創出するとともに、公安職希望の学生と行政職希望の学生における相互受験を推奨していく。また、行政職公務員の合格対策として、予備校 WEB 講座を利用するとともに、支援室教員が映像授業の補完指導を行うことで、さらなる合格実績につなげていく。行政職公務員に 15 名の最終合格者を輩出する。

3. 学生支援に関する取組み

(1) 学生支援センター、学生育成センター

各種奨学金の採用や事務手続の円滑な運営、学生の課外活動の支援により学生生活支援の充実化を図る。学生指導の諸問題については、全学的な学生指導体制を確立し、IPU生としてのモラルをもって生活できるように指導する。

(2) 国際教養・教育センター

世界的なコロナ感染拡大により、IPUNZへの留学中止・延期、外国人留学生の入国制限、オンライン授業、新規の助成・支援金、国際交流活動の中止等の事項への対応を、2021年度も引き続き継続していく。IPUNZ等と海外大学機関との連携、資格取得報奨金制度を採り入れた資格取得推進、高大接続の推進、国際交流・留学生サポートを通して、展開していく。

(3) 体育会

有望なスポーツタレントの獲得に向け、情報の収集・分析とタイムリーなアプローチを行うとともに、各部の成績向上、スポーツ科学センター(インスパイア)を活用した研究実績に基づく効果的な練習環境の整備を図る。また、学内及び地域への貢献活動を充実させ、さらに7月実施予定の東京オリンピックに向けた取組みを実施する。

(4) 学友会

学友会の諸活動や学園祭への支援、クラブ・サークル活動(体育会以外)への助成の充実を図る。

4. 募集戦略

(1) 募集における出願実数の拡大、学力の高い受験生と岡山県内の高校からの出願数の増加、すべての学科の定員充足を目指す。

(2) 学生募集チームにおける戦略の設計と月次での進捗管理、全体戦略の明確化を行い、国内と国外での募集戦術の連携を図る。

(3) アドミッションセンター組織と業務内容の再整理を行い、各メンバーの業務分掌の再設定を行う。

(4) 募集のための入試広報と、イメージ・ブランディング・認知度向上のための大学広報を展開する。

(5) 大学共通テストの会場受入れの準備・対応・改善策とともに、本学入試の運営方法の改善を図る。

5. 施設・設備の活用

(1) 校舎「DISCOVERY(ディスカバリー)」を活用した非認知能力教育の実践と、新たな双方向教育の開発と実現に向けて各学科での企画を実施し、学外に教育と研究の成果を発信する。

(2) スポーツ科学センター「INSPIRE」を活用した研究活動の取組と研究成果の発信を行うとともに、地域の研究拠点としての産官学連携の取組や、地域貢献としてのイベント活動や教育研究の広報発信によって大学の評価を高める。

6. 研究に関する取組み

(1) 研究紀要を年2回発行するとともに、研究発表会の実施等により研究のサポート体制を一層充実させ、科研費の獲得等について積極的に支援を行っていく。

(2) スポーツ科学センター(インスパイア)を新たな拠点とする研究の取組と、産業界や自治体、他大学(連携協定締結)との共同研究等を推進し、研究内容の対外発信を行う。

7. FD・SDに関する取組み

- (1) アセスメント・ポリシーの仕組みづくり(機関レベル)として、IR機能の実質化(処理技術の向上、IR分析機能の共有、IT環境の整備等)、学生FD・学生SDの実質化、教職員総会における目標・課題の共有と業務改善の促進を図る。
- (2) アセスメント・ポリシーの仕組みづくり(カリキュラムレベル)として、学科・語学・教養別によるカリキュラム・マネジメント、シラバスに基づく単位の実質化、成績評価の平準化、認証評価への対応を図る。
- (3) アセスメント・ポリシーの仕組みづくり(授業レベル)を行うため、アクティブ・ラーニング型授業の開発、ICT活用技術の向上、同時双方向型・オンデマンド配信型授業の再開発、学修ポートフォリオの導入、授業改善のためのクラウド型管理システムの導入を図る。
- (4) アセスメント・ポリシーの仕組みづくりとともに、新たな教育の仕組みの構築と個別最適化を目指した教育を展開する。

8. 評価及び業務の合理化等に関する取組み

- (1) 今般のコロナ禍において大学予算の効率的運営と業務の合理化から、教育研究経費・管理経費の見直しや省エネルギーの徹底、IT化の推進を実施する。
- (2) 学内外のコンプライアンスの徹底を図るため、公的研究資金の不正使用防止、個人情報保護及びハラスメント防止対策等に関するFD・SD研修や啓発活動の充実を図る。
- (3) 日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価の受審を受けて、改善意見に対しての学内体制や諸規程・制度の再整備を行い、改善報告書を提出する。
- (4) 2021年度も引き続き、高等教育無償化(高等教育の修学支援新制度)の実施に伴う諸事務手続、受付体制や要件に応じた成績管理等について学内での体制を整備していく。

2. 東京経営短期大学

<事業計画概要>

感染予防対策を講じて、コロナ終息後の社会ニーズを先読みし、対面授業の展開をすると共に、必要に応じてオンライン授業を活用し、資格取得を含めた専門知識とコミュニケーション能力、ホスピタリティ精神及び協調性を向上させ、幅広い分野で活躍できる人材育成を行う。また、社会事情及び就職活動の変化に対応したキャリア教育の充実化を図る。さらに、コロナ禍においてもグローバル社会において必要とされる異文化理解を深めるために、海外教育提携大学とのオンライン国際交流授業の内容を充実し、英語教育においてもTOEICゼミのレベル別実施を含め更なる充実化を図る。

R3年度から「観光ホスピタリティコース supported by Hotel Okura」を開設すると共に、既存4コースの精査を行い各コースにおける専門性を高めると共に、R4年度開設の新コース(情報系)カリキュラム構築を目指す。

<主な事業計画>

1. 経営総合学科

「観光ホスピタリティコース supported by Hotel Okura」を開設し、ホテルオークラから現役のチーフコンシェルジェをコース長とし、産学連携の専門教育を展開する。また、「会計税務コース」「医療事務コース」「総合ビジネスコース」におけるコース毎の運営を軸として、各コースに

おける専門性を高めるとともに、「情報コミュニケーション」専門科目区分に新たに「ICT 概論」「アプリ開発」等を設置し、情報系教育の充実と新規コース構築を目指す。さらに、簿記検定、MOS (Word/Excel)、TOEIC の資格取得を目標とし、関連科目及び学内塾の活性化を図る。特に簿記においては、1 年次の合格率 80%を目指す。

2. こども教育学科

「いちご広場（地域子育て支援授業）」「こどもフェスタ（表現教育発表会）」等を学内で実践することで、総合的な学習経験を通じた保育実践力を育成する系統立てたカリキュラムを構築する。また、一人一人の強みを活かし実践力を養うために「特別演習ⅠⅡ」において「幼小連携（小学校免許）」「カウンセリング技法（ピアヘルパー）」「子どものこころ（乳幼児ケアヘルパー）」に重点をおいたクラス編成を行う。さらに、英語が好きな保育士を養成するため、ハワイ及びヨーロッパとオンラインでつなぎ、現地の保育園や幼稚園の現状を知る機会を授業に取り入れ、国際的な視野を身に付けさせる。

3. 学生募集

ターゲット高校（350 校）年 5 回訪問を実施し、全教職員による重点校の訪問を行うとともに、オープンキャンパス、説明会の内容改善に努め、歩留まりを 1 割程度上げる。また、運営を学生中心に実施して、教育成果を数値化してアピールする。さらに、高校への教育成果報告を年 4 回のニュースレター発行にて実施する。また、高校との教育連携を強化し、校内ガイダンス・出前授業を率先して実施し、高校 2 年生、1 年生へのアピールも強化していく。

4. 進路支援の強化

キャリア塾・キャリアセンター・ゼミ担当講師を中心として進路支援の強化を図るとともに、インターシップ・ボランティア・実習等を含むキャリア教育の充実化を図る。

【その他の設置校】

3. クラーク記念国際高等学校

全日型教育の教育成果の追求し、新たなコース・専攻を設置するとともに、CLARK SMART の全国展開及び教育成果の向上を図る。特に「個別最適型」の教育展開への転換を図り、キャンパスを規模で区分するのではなく、学びのスタイル別に分類して発展させる。また、内部監査体制の強化、管理職及び教職員への法令に関する研修を行う。

4. 専修学校 クラーク高等学院天王寺校

教科横断型の探求授業、企業・地域連携授業による非認知能力の向上とともに、外部講師・教育コンテンツによる先進的な教育の充実を図る。また、新設するインターナショナルコースにおける国際・グローバル教育による英語力の向上を目指し、e スポーツコースにおいては新規ビジネス、新スポーツ産業について学ぶ。

5. 専修学校 クラーク高等学院大阪梅田校

特色重視の特化型教育（独自カリキュラム）で生徒一人ひとりの才能を開花させるとともに、実践的な問題解決型学習（PBL）を導入し、生徒の主体性と能動性を養う。また、多様な生徒のニーズに応えるコース展開と学習環境の確立し、生徒主体型の学校運営で自分の学校に誇りが持てる体制づくりを行う。

6. 専修学校 クラーク高等学院名古屋校

「未来を切り拓く考える力の育成」を掲げ、主体性を軸とした生徒の非認知能力の育成を目指した学校行事や学年、学級経営の実施、ゼミ授業を中心に教科横断型、課題解決型の学習に注力する。また、カリキュラムマネジメントの観点から教育内容を精査し、より教育成果が上がるように創意工夫を行うとともに、担当者の育成や新入募集と転編入募集を分担することによって広報体制を強化し、新入生 105 名、年度内転編入生 25 名を達成することで定員を充足させ、将来的なキャンパスの増床を目指す。

7. 創志学園高等学校

岡山大学を含めた国公立大学への合格実績数（目標数 20 名）を伸ばすとともに、看護師国家試験 100%合格を継続できる体制づくりを構築する。また、国際的に通用する看護師養成の取り組みを推進し、他校の看護科との差別化を図り、優秀な生徒・学生を育成する。さらに体育コース生を中心に、学校での生活面だけではなく学習面の指導も強化し、文武両道の学校づくりを進めるとともに、グローバル教育として、留学会を通じ、放課後及び土曜日での特別指導を充実させ、生徒の英語 4 技能の向上を図り、海外での短期留学を推進していく。

8. 専門学校 東京国際ビジネスカレッジ

ウィズコロナからアフターコロナに向かうことを見据え、既存のホスピタリティを重視した教育に加え、語学、IT、会計等のより高度な資格取得に向かうカリキュラムを展開するとともに、コロナ禍で培ったオンライン配信・学習のノウハウを活用し、ICT を活用した学習教材（語学学習のシステム、予習復習での活用等）を開発する。また、現在も行っている EMBA Business school や SOAS Language Centre in London とのオンライン語学交流のような今だからこそできる国際教育を継続し、コロナ禍の影響で R2 年度に実施できなかった海外短期研修（ハワイ・スイス等）を、R4 年 2 月を目標に実施を検討する。

9. 専門学校 東京国際ビジネスカレッジ 福岡校

専門課程においては、企業に受け入れられる学生を輩出するべく、ゼミ授業を 7 種類に拡充し、1 年生の 50%が資格取得できるように合格数目標を設定してゼミを実施・指導する。また、資格試験、就職の実績を活用した広報体制を構築し、学生募集の安定化を図る。

高等課程においては、学力向上・進路決定の成果向上のため、国際教育と表現教育の充実を図る。特に国際教育においては「話す」「聞く」ことを重視した英語授業で 10%以上の生徒が英検準 2 級取得を目指すとともに、ZOOM による留学生との交流会や SDG s 勉強会に積極的に取り組む。

10. 日本健康医療専門学校

「卒業後に責任を持つ教育の実践」を教育目標として掲げ、鍼灸・柔道整復学科は3年次12月までに全員就職内定、国家試験合格率100%を達成する。また、ライフケア学科は時代のニーズに合わせた教育を実践し、パーソナルトレーナーとして必須のコーチング力等メンタル面の教育も充実させる。

以上